



教育と修復的対話

活水女子大学 田淵久美子

+



1. 学校の抱える課題

•学校は

[子どもたちの成長・発達の間
子どもは社会に生きる存在

子どもの人格形成に大きな影響を与える
場である。

• また一方で学校は

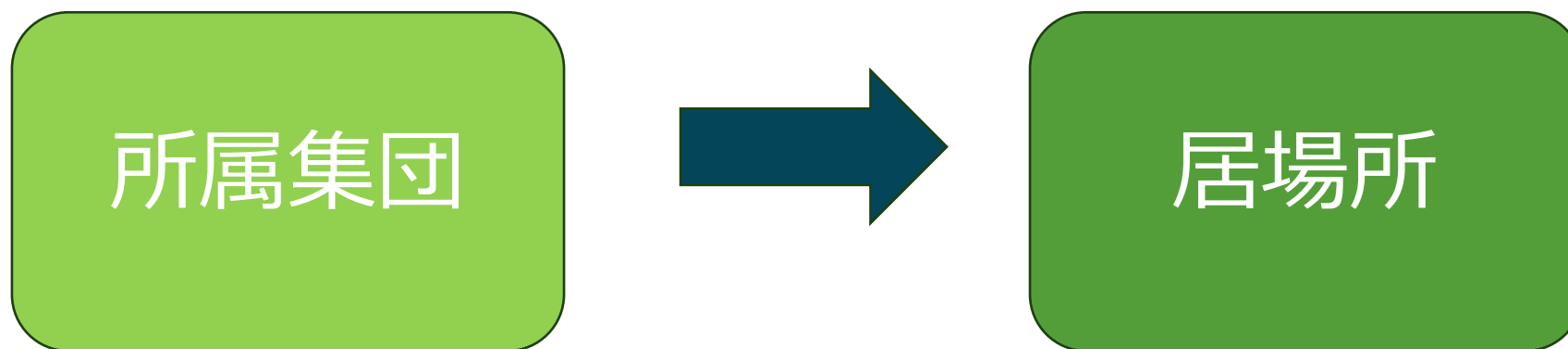
子どもたちにとって息苦しい場！？

不登校・いじめ・ブラック校則……

- 学校の様々な課題の多くは

対話の不足によって生じている！

- 学校が子どもたちの人間的な成長の場となるために



• 学校が子どもにとって人間的な成長の場となる可能性は

- これまでや現在の学校における生活指導実践
- 学校や学級集団を自治の場として育てる実践

⇒優れた教育実践では、**対話**が重視されている。

• 学校に必要なほんとうの対話

- 子どもたちと子どもたちとの対話
- 教師と子どもたちとの対話

相互理解・共感・公正さ・共同への意志・責任をつくる

…… **修復的対話**

2. 修復的対話とは

「修復」の理念

- 人間の社会で生じた紛争や葛藤を、力関係でなく、当事者や当事者を取り巻くコミュニティの課題としてとらえ、共同で問題解決をしていく。
- 加害者と被害者がいる場合、単に加害者を罰することではなく、加害者・被害者双方のニーズを明らかにし、生じた害・人間関係・コミュニティを修復する。

修復的正義とは

- 犯された罪悪を可能な限り正し、癒すために、その罪悪による損害、ニーズ、果たすべき責任をすべての関係者がともに認識し、語る協力的な手続きである。（ゼア）

- つまり…

コミュニティの全員が互いを尊重し、対話し、真実を語り合い、生じた害を深くとらえ、その過程を経て、エンパワメントと癒しを得る。

そのことによって、コミュニティが再構築される。

修復的正義の人間観

- 人間は対話によって、相互に理解を深め、共感を得ることができる。
- 人間は、他者との関係の中で自己変革を行うことができる。

それは理想に過ぎないのか？

- ゼアの著書あとがきより

本書で書かれたことはあまりにも理想的で、非現実的に映るかもしれない……にもかかわらず私は理想を信じている。多くの場合、理想に達しなくとも、理想は標識、つまりそれをめざして進むもの、あるいは私達の活動の達成度を測るものとして働く。それは方向を指し示してくれる。方向を示してくれるからこそ、私達は道はずれたことが分かるのである。

問題行動に
は厳罰を

X

自分たちの
問題として
考えよう。

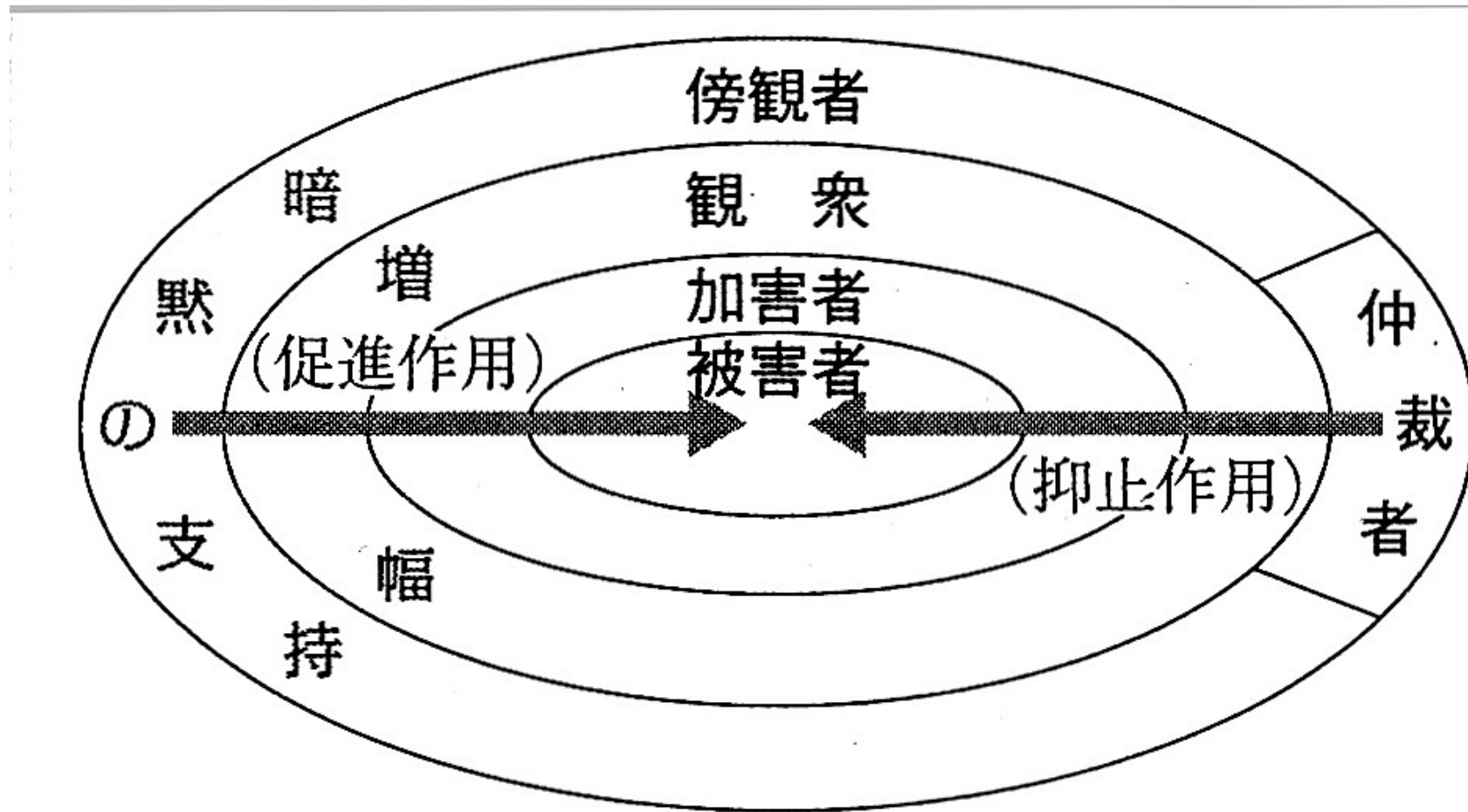
- どちらが子どもたちを人間らしく責任ある行動ができるよう育てるだろう。
- どちらが学校風土（School Climate）を良いものにするだろう。

3. 子どもたちに育てたい力と 修復的対話の意義

たとえば、いじめの問題

- いじめ = 学校における人間関係の紛争・葛藤
文部科学省統計では、2021年度は615,351件の認知。
- いじめのほんとうの解決とは？
加害者が心から反省し謝罪することができる。
被害者が癒やされ、エンパワメントされる。
もう同じようにいじめが繰り返されることはない。

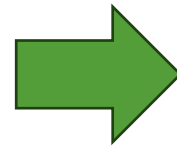
いじめ集団の4層構造モデル (森田1985)



いじめを減らすために必要なのは

- 子どもたち自身がいじめという問題に向き合い、自分たち自身の問題としてとらえ、解決する力が必要とされる。

いじめの予防と解決に必要な力



対話する力

修復的実践の連続体

IIRP (International Institute for Restorative Practices) では、修復的実践を連続体としてとらえており、サークルの位置づけを図のように示している (Costello, Wachtel, J. & Wachtel, T 2019:10)。

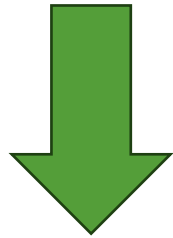
INFORMAL			FORMAL	
感情の表現	感情の 問いかけ	小規模で 即興的な会話	サークル	フォーマルな カンファレンス

修復的な問い

- 行動を非難したり正当化したりするのではなく、行動や出来事のストーリー、それらの行動や出来事に関連する考えや感情、物事を正すための解決策を引き出すための問い。
- 「能動的責任」（ブレイスウェイト）を引き出す問い。

教育において重要な価値

- 子どもたちが、他者との関係の中で人間らしく育っていく存在であることへの信頼。
- 子どもたちの成長・発達への信頼。



- 人間への信頼を根底に持つ修復的実践の人間観と重なる。

参考文献

- ・ 森田洋司2010『いじめとは何かー教室の問題、社会の問題ー』中央公論新社。
- ・ ハワード・ゼア（西村春夫・細井洋子・高橋則夫監訳）2003『修復的司法とは何かー応報から関係修復へ』新泉社。
- ・ Bob Costello, Joshua Wachtel & Ted Wachtel
2019 *Restorative Circles in Schools*, 2nd edition,
IIRP.